

2015年  
入試用

## 学校説明会レポート



# 日本女子大学附属中学校 ・ 高等学校

日時	2014年 6月25日(水) 10時50分~12時00分
所在地	神奈川県川崎市
会場	西生田成瀬講堂南ホール
対象	塾
出席者数	約200名
配付資料	中・高等学校案内、中・高「Q and A」、塾関係者対象説明会資料、中高「カリキュラムパンフレット」、2014年入試問題など

### 説明会の概要

#### あいさつ

野本校長 10:50~11:05

- 4月より校長に就任しました。本校は東京ドーム6個分以上の広さのキャンパスにあり、中高施設はちょうど鳥が羽を広げたような形に位置しています。中・高はそれぞれ別の体制をとっており、クラブ活動・行事なども別に行っています。
- 本校は1901年に、成瀬仁蔵により開校されました。教育目標は「自ら考え 自ら学び 自ら行動する」ことで、「生き生きした女性」の育成を目指しています。
- 中学の教育は苦手科目をつくらないように基礎科目を徹底して勉強します。たくさんの文章を書くことで、感じる心、表現する心を育てます。実習教科では自ら体験し考える力をつけます。中学3年では総まとめとして「年間研究」という学習課題があります。
- 高校では、ほぼ全員が4年制大学進学を目指していますので、大学進学後にも学習を支える学力をつけています。文・理系分けをせず、3年では、仏・独・中国語の第二外国語のほか、時事問題、芸術、受験対策などの幅広い科目から選択が可能です。
- 併設大に進学する場合は受験勉強の制約がないので、自分で課題を見つけ、取り組むことができます。高校では自治活動を大切に、生徒により行事が運営されます。また、隔年での「アフガニスタン女性教育支援」を行っており、現地の学生を招き、平和を考える機会を設けています。

## 入試結果について

下村副校長 11:05~11:15

- 【変更点】 中学・高校入試→(なし)

### <中学>

- 中学の定員の1/2以上、高校定員の1/3以上を外部入学生としています。  
2014年度は、中学は定員252名のうち145名が、高校は定員368名のうち138名が外部入学生として入学しました。
- 中学帰国生入試は、第1回入試と同じ日に実施します。入試科目は、国語・算数で、一般入試とは別の内容で、基礎学力を問う問題を出題しています。面接は約8分間で、判定の上で重要なものとなります。海外生活で体験したことや考えたことを質問します。2014年は18名が受験し10名が合格、8名が入学しました。
- 中学一般入試は、第1回が約90名、第2回が約40名の募集です。筆記試験は4科で、配点は2013年より、国語・算数は各60点(各50分)、理科・社会は各40点(各30分)となっています。合計点でのみの判定で、科目ごとの足切りはありません。面接は約3分間で参考程度です。普通の受け答えができれば問題はありません。
- 2013年に国語・算数の配点を10点(50→60点)高くしたことで基礎的な問題が増え、2013年以降、合格者平均得点率が上がっています。しかし、配点を10点(50→40点)低くした理科・社会は基礎的な問題が減って難しくなったことで、2013年に合格者平均得点率が下がりました。それを受け、2014年の第1回では理科・社会の基礎的な問題を増やしました。その結果、第1回の理・社の平均点は上がっています。第2回の理・社は2013年度と内容を変えていませんので、合格者平均点も2013年と変わりません。
- 合格者最低点は、第1回が114点(2013年)→130点(2014年)で、第2回が121点(2013年)→120点(2014年)でした(200点満点)。  
2014年の第1回の実質倍率は2.2倍です。第2回の実質倍率は3.3倍です。
- 第1回の不合格者108名中98名が第2回を再受験しました。第1回・第2回重複受験者は、繰り上げが出るときに優遇しています。2014年は23名が繰り上げ合格となっています。優遇措置で繰り上げ合格となった受験生は多く、再受験者にとって有利なものとなっています。

### <高校>

- 高校の推薦入試は募集約60名で、本校を第1志望とする生徒が対象です。調査書、作文、面接を総合して合否を決定します。作文は与えられた資料に関して、50分間で1000~1200字で論じるもので、受験生の考える力、筋道を立てて表現する力を見ます。面接では、第一面接(中学の調査書の内容などについて、約8分間)と第二面接(社会問題などについて、約4分間)を行いました。
- 推薦志願者90名中71名が合格で、倍率は1.3倍です。19名が不合格となりましたが、全員が一般入試を再受験し13名が合格しています。推薦での不合格者は一般入試を再受

験する際に優遇措置を設けています。

- 高校一般入試は募集人員約 70 名で、英語・数学・国語の筆記試験、面接、調査書により合否を決定します。2014 年の志願者は 155 名で合格者は 90 名、実質倍率は 1.7 倍でした。合格者最低点は 165 点（300 点満点）でした。
- 高校入試の帰国生入試は枠を設けず、一般入試と同じ日に同じ問題で入試を行います。高校入試での海外帰国生の認定は、「海外 2 年以上で、中学 2 年の 6 月以降に帰国した生徒、また日本の中学校に相当する教育課程を修了、在籍する生徒」とします。認定されると、一般入試の合否判定の際に優遇されます。2014 年入試では、14 名が受験し、補欠も含めると 12 名が合格しました。
- 2015 年入試については、中高とも、募集人員、入学資格、入試の形式については変更ありません。9 月より、募集要項、出願書類の販売をいたします。

### 各教科の入試についての説明

11:15~11:35

<中学>

- 国語（中原先生）…問いに適切に答えるだけでなく、自分の言葉でまとめる力が必要です。漢字や語句などの問題では、本文の内容にふさわしい表現に直すように指示する問題もあります。記述の問題では、小説文では文中の言葉から登場人物の心情を想像することが求められます。説明文では、重要な言葉を押さえ自分でまとめる問題も近年出題しています。問題文をよく読み、何を問われているのかをよく確認して解いてください。
- 算数（森本先生）…基本的な問題を多く出しています。前半の基本的な計算と小問は十分な練習を積みれば確実に解ける問題なので、速く正確に解けるよう練習をしておいてください。計算はただ前から順番に解くのではなく、式全体を見て工夫して解くようにしましょう。計算の途中式を求める問題は、等号でつながった一つの式で書いてください。小問ではさまざまな分野から出題していますが、速さ、鶴亀算、面積、「3.14」を使う問題、立体図形など、基本的な分野は例年必ず出題しています。後半の応用問題では問題の条件を一つひとつ整理する力が求められます。自分で図やグラフを書きながら順番に筋道を追って考えてください。大問の最初の小問がヒントになっていることもあります。
- 理科（中村先生）…第 1・2 回とも例年通り、生物・地学・化学・物理のすべての分野から出題する予定です。教科書にある基本的な事柄を中心に問題を作成するようにしています。2014 年で差がついた問題は、第 1 回大問 8 の記述です。「水に浮かべて、浮かび方（沈み方）を比べる」が正解であるところ、「水に浮かべる」など、何を調べるべきなのか書いていない解答が多く見られました。明快な文章で答えてほしいと思います。また、第 1 回大問 7 ではグラフが書けない生徒が多かったです。学校の実験観察に関して、実験の意味を理解し、結果の考察を十分に行うようにしておきましょう。
- 社会（藤沢先生）…広い範囲からまんべんなく、記号選択制の問題が中心です。歴史・地理分野は同じ比率で配点しており、公民は時事問題を含めてやや少なめです。都道府

県名、教科書レベルの歴史的人物名は漢字で書けるようにしておいてください。例年、短めの記述を出題していますが、問題を読み違えた答えが見られます。落ち着いて試験に臨んでください。歴史は、テーマを定めて年表や資料で出題しています。テーマに沿って時代をまたいで考える必要があるため、時代ごとの特徴をつかむ必要があります。出来事の並べ替え問題も出題していますが、年号に頼らなくても物事の流れや因果関係がわかれば答えられるように出題しています。地理は、統計や地図をもとに見慣れた資料について切り口を変えて提示することが多いです。グラフなどの資料から読み取った内容を文章に表現する力が問われます。

#### <高校>

- 国語（長沼先生）・・・2014年入試では、受験生の読解力を見ることを重視するため、内容はやや難易度の高いものを出题し、受験者平均点は51.5点でした。長文問題では選択肢問題が中心ですが、初めの方の問題の誤答が目立ちました。本文と選択肢の内容のどちらも正しく理解する必要があります。記述問題は叙情的文章から出題しましたが、いかに的確に表現するかで差がつかれました。漢字の書き取りでは、語彙力が低下している傾向が感じられます。日頃からたくさんの文章を読み、日常的な言葉遣いを意識するようにしてください。
- 英語（中谷先生）・・・放送によるリスニング問題では、アメリカ人の教員が担当しています。読解問題では比較的長い文章1題、短い文章2題を出題しています。語彙・文法問題では中学までに学習するものを幅広く出題しています。作文問題では、対話文を完成させる問題などのほか、50語程度の自由英作文を書くものが出題されます。2014年入試では受験者平均点は62点、最高点は92点でした。
- 数学（松田先生）・・・標準的な問題を出题するよう心がけていますが、得点差は大きく開く結果になっています。2014年は、平方根の問題の正答率が低かったです。幾何の分野についても同じようなことが言えます。例年通りの傾向で出題しますので、過去問をしっかりと解いて準備しておくようにしましょう。

#### 社会科の教育について

中学社会科 峯岸先生 11:35~11:50

- 中学1・2年で地理・歴史的分野、中学3年で公民・歴史的分野を学んでいます。地理的分野では中学1年で西生田の地理から入り、コンピュータを利用して身近な問題から世界規模の問題まで理解していきます。歴史的分野では興味を引き出すように、多様な資料をもとに授業を行っています。公民的分野では新聞が読めること、現代社会がしっかり理解できることを目標としています。
- 高校1年では地理・世界史、2年生では日本史・世界史、3年生で政治経済・倫理が必修です。3年での選択科目の「選択 B」では少人数のゼミ形式で行われ、個別テーマに取り組み発表や討議を重ねます。また、情報と連携授業を行っている政治経済では、地方紙を読み比べ、考察することも行っています。

- 卒業生に本校の社会の特徴を聞いたところ、大学のレポートを心理的抵抗なく書けると答えてくれました。これは、中学校から書くことを重視していることによります。本校は「表現する力」を大切にしています。東北校外授業（中2）や選択校外授業（中3）では実物から学び、行く先々で体験しながら授業が進められます。中学1年では、戸籍や木簡の読み取りも行います。また、「なぜ?」「どうして?」という部分を授業で大切にし、テーマに沿った議論をもとに考えを深め、本質を理解することを大切にしています。このように、観察力や思考力を鍛え、表現する力を磨いています。

### 進路指導について

みつまた先生 11:50~12:00

- 卒業生のほぼ100%が大学進学をしており、2014年卒業生の進路状況の割合は、併設大81%、他大学15%で、現役進学率は96%です（残り4%が浪人）。
- 進路決定において、付属高校ならではのさまざまな行事があります。高2より、「軽井沢セミナー」が開かれるほか、「学部学科説明会」や大学教授による「特別講義」、「研究室訪問」「付属校生対象オープンキャンパス」「各学科進学相談会」なども実施されます。併設大には原則として全員が進学でき、例年約80%の卒業生が併設大に進学しています。
- 他大学進学者は例年約20%ですが、併設大にない8学部（医、歯、薬、看護、獣医、法、芸術、体育）は併設大の推薦権を保留したまま他大学を受験することができます。
- 日本女子大学の2014年卒業生の就職決定率は97.9%で、就職に強い大学との評価を受けています。また、内定先の満足度が高い（大変満足・だいたい満足が99.7%）ものとなっています。

### 説明会の雰囲気・印象

- 当日は塾関係者への授業公開も行われ、授業風景を見学することができました。豊かな自然の中、のびのびと学習活動に取り組む生徒たちの様子が伺えました。説明会は、校長先生の挨拶をはじめ、和やかな雰囲気の中で行われました。今回は、社会科から学校教育の特色の説明があり、具体的な取り組みが紹介されました。配布された資料は、説明のポイントがまとめられていたので、わかりやすかったです。

### 学校周辺の環境

- 西生田緑地の一角にあり、駅から小高い丘を上ります。キャンパスまでの道のりには、歩道や歩道橋があり、通学しやすいものとなっています。キャンパス入口では、常時警備員さんが学生や生徒たちの登下校を見守ってくれていて、安心です。中高校舎はキャンパスの坂道をさらに上った、小鳥のさえずりが聞こえる、木々の中にあります。

### 交通

- 小田急線 読売ランド前駅から徒歩10分